

語り手

清水 しみず

弘昭 ひろあき

さん



理容シミズ

姫路市岡町

理容師になるまで

清水弘昭（しみずひろあき）です。昭和九年二月二十七日生まれ。八十三歳。

父が当地で理容店を開業したんですが、昭和四年、今年でちょうど九十年です。生まれてからずっとここ岡町七番地に住んでいます。保育園はこの山の南側にある景福寺保育園に行きました。小学校は二年生まで船場小学校に行き、ものすごく人数が多くなってね。三年生の時に城西小学校ができ、国道から北側の四年生から一年生が、椅子一つ持って移りました。五、六年生はすぐ卒業せんらんからそのまま船場小学校に残りました。私は城西小学校第二回卒業生です。

小学五年生（当時は国民学校）の時に姫路が空襲に遭ってね。昭和二十年六月に川西航空機製作所いうところに、爆弾が落ちたのが一回目でした。それまでに、自発的に、個々に避難場所を作っていたんやけど、岡町一隣保は、当時空き地になっていた私とこの前の野本眼科の土地に、屋根付きの防空壕を掘って、「空襲警報発令」言うたらそこに飛び込んで、「空襲警報解除」言うまでそこにおったんですよ。各町ごとに協力して避難場所を作っていました。七月には、姫路の駅から北側一帯、今度は爆弾やなしに焼夷弾があたりかまわず落ちてね。焼夷弾は爆発せんと、筒の中に油脂が入ってるから、落ちてからそれが燃えるわけよ。前回の空襲では「川西」でちょっと離れとるから防空壕の中にずっとおったんやけど、「今度は防空壕に直撃弾が落ちるかもわかれへん、どうも危ないぞ」言うて、父と母と私と二歳下の妹の四人で、城西小学校の北側の新在家あたりまで逃げたんですよ。もしそこへ焼夷弾が落ちとったら多数の死傷者が出とったやろね。空襲が終わって家の近くまで帰ってくると、家の窓が真っ赤になっとるんですよ。「あくもうこれは燃えよるわ、もう諦めなしないな」言うてたんやけど、結局、今井酒造（現在コナミスポーツクラブ・材木町三十五―六）のところで火が止まって、焼けんとするでね。しかしながら、駅の北側



一帯は焼け野原になってね。

空襲の後、駅からうちまで散髪屋は一軒もなかったから、家は忙しかったんや。そやから、小学校、中学校の私は、あんまり親と一緒にご飯食べることもなかったね。店の休みが七のつく七日、十七日、二十七日。それから週休になって月、火曜日でしょ。日曜が休みやないから、親と一緒に遊びに連れて行ってもろたことがないんですよ。いっつも仕事しよった。

母親はね、田舎から出てきたんやけどね、よう仕事してましたわ。そやけど母親らしいことしてもろたことないんですよ。ご飯はできる折に作ってあって、食べるときは一人が多くてね、そういうのがあんまり好きやなかったなあ。

城西小学校を卒業して、姫路中学校に試験を受けて入学したんです。私らが旧制中学校制度の最後の生徒やね。中学校二年生の時に、新しく六三三制になって男女共学になりました。姫中は姫路西高等学校になって、西高等学校の中に臨時で併設中学を作って、その二年生に編入になったんよ。そこでまた、西高に残るものと東高に行くものとくじ引きしたんです。私は西高に残って、併設中学を卒業して、四年から新しくできた琴丘高等学校の一年生に編入になりました。というのは、いわゆる学区制ということで、城北あたりは西高へ、船場あたりは琴丘高にというように法で決められたんですよ。小学校卒業する折に、姫中受けたもんやら、白鷺中受けたもんやら、姫商受けたもんやらが、この地域では琴丘高校に編入になったんや。当時はそのようなことに、あまり文句もなかったように思う。琴丘高出た後は大学に行って、政治・経済を勉強しました。

理髪師として

父はずっと散髪屋をしとりまして、駅の南にある姫路理容美容専門学校の校長もしとり



ました。姫路理容美容専門学校というのは、兵庫県の理容組合と美容組合との組合立の学校なんです。私も四十歳までは家の散髪屋に、その後理容美容専門学校の職員として、「衛生法規」「消毒法」などの学科を主に教えて、技術というより実務、運営で教頭として六十七歳までおりました。

家の跡を継ぐことは、何も考えてへんかった。やりたかったわけでもないし、そんなに好きやなかった。父親にだまされたんちゃうやろか？

私らの時代は資格取るのに、理髪師の試験さえ受かったらよかったからね。でも、いきなりお店に出て仕事ができればええけど、できなんだらしょうがないからね。五年くらいは修行ですわ。いやあ、ほんまに理容の技術の方で自慢できることなんて、なんにもあらへんわ。

うちの店でも、多い時は椅子が奥も広げて五つあったんですよ。私がお店に入ったとき、従業員さんは住み込みが二人、通いが一人あったね。あんな狭い家に、家族四人とで七人あったな。

仕事してて、「やったなあ、やれやれ」と思えたのは、十二月三十一日の仕事が終わった時かなあ。三十一日は仕事が終わるのは一月一日の朝三時ごろ。朝二時、三時くらいまで片付けして、もちろん除夜の鐘が鳴ってる時はまだ仕事真っ最中やからね。紅白なんかもまともにテレビで見られへんから、ラジオでね。一番遅うに散髪に来られよったんが豆腐屋さん。だいたい一時くらいかなあ。今の野本眼科の北側にカワイイさんいう豆腐屋さんがあって、「ああカワイイさんきたったなあ、もう終わりやなあ」思いよった。うちよりも店閉めるのが遅いのが風呂屋さん。道を挟んで北側にありました。うちが行くまで待ってくれとるねん。閉められへん。うちらが行っておしまいや。「風呂屋さん待ってよから早よ行こか」言うて、親父と二人で風呂に入って「ええ気持ちやなあ、やったなあ」いう感じ。

若い頃の姫路青年理容師会の活動は面白かった。会員二百人くらいあったかなあ。休み



の月曜日、冬はスキー、秋は運動会、地区対抗の野球大会、いろいろ行事してね。スキーは神鍋へ。日曜日、仕事終わって夜の二時くらいに駅前に集合して、貸し切りバスで朝方神鍋まで行って、月曜日の夕方帰ってきてよかった。家内とはそういう催しの中で知りっ会って結婚しました。

なにより大変やったんは、阪神大震災や。一つは私事で、新婚間もない娘夫婦が、垂水から避難してきたこと。もう一つはJR兵庫駅前にあった姉妹校の神戸理容美容専門学校が全壊したことや。神戸校に在籍しとった生徒と、次の四月に入学予定の生徒、教員も全部姫路で引き受けました。姫路校の教室、講堂全部使って授業や。淡路からも通ってきよったからね。あの折は大変やったですわ。神戸校ができるまで二年かかりましたが、立派に再建できました。今でも、あの二〜三年はようやったと思いますわ。

最近は、理容師はさっぱり人気がないねえ。美容師希望の方が多いいのは、カッコええからかなあ。おんなじような過程で勉強して、仕事してるのになんでやるね。美容院の方は、先生って言うでしょ？散髪屋の方は先生なんて言わない。やっぱりファッション性が美容の方が高いから違います？

うちの店では、調髪、顔そり、シャンプー、毛染め、パーマ。今は家内一人なんで、パーマはやってないんです。毛染めも、美容はカラー染めが多いけど、理容はほとんど白髪染め、黒ですわな。そういうのんで、仕事の多様性の有る無しとかがあるんちゃうかなあ。私もお店で、先生なんていわれたら、ヒヤッとするわ。ハハハ。

赤ちゃんの散髪は大変やったねえ。ハサミを使うのはまあまあ大したことない。カミソリを使うときはよっぽど気を付け、早せなでけへん。カミソリいうても、日本カミソリいうたら柄があって包丁みたいになつとるんやけど、柄や刃をものすごう短うしてね、ちよつとくらい赤ちゃんが動いても切れんように、手のひらに入らうくらいにしたり工夫したりしよったんやけど。家内も年いって小さい子は怪我さすと怖いですから、今はもう全部断っ



てね。

仕事を離れて

六十七歳退職後は、何もせずにずっと遊んでるんですよ。お客さんが順番待ってても私のお店には出ないですよ。出るなら徹底的にせんとね。ちょっと待っててやからいうて出ていって、刈るだけとか頭洗うとか手伝うて、待っとるお客さんは、自分より前のお客さんにそないしたら順番がはよ来るから喜んでやけど、自分がそないされたら嬉しくないと思うね。そやから徹底してお店には出ないね。

岡町の自治会長は七十一歳から六年しました。副会長は三十代半ばから続けて長いことしました。たいした仕事やないんやけども、よう続いたなあと思うのは公衆衛生委員。おかた五十年やとるんですよ。おそらく姫路市でも一番古い思いますわ。公衆衛生委員というのは、市の嘱託で衛生関係のチラシを回覧したり、ポスター貼ったり、粗大ごみ収集の準備したり、かたづけをしたり、今はもう中止になりましたが、水たまりや溝の害虫駆除用の薬剤を保健所にもらいに行ったりね。

今の暮らし

八十三になって普段は、十時半を過ぎるとコナミの風呂に行きます。そのほかカメラ持ってその辺をうろろしたり。でも、全然ヘタ。センスがない。自慢するようなもんはないですわ。

若い時から趣味はね、釣りと写真と旅行。連れと毎週のように日本海へ行ったことも。写真で撮るのは、風景、花、お城。春、夏は市の橋の土手や景福寺山、灘祭りの頃になる



と名古屋、冬になると文学館や男山から、お城のシルエット入れて朝日と雲の輝きをね。車で、四国一周八十八か所札所巡りもしました。西国三十三か所札所巡りは今四回目ですが、今回はもう車ではよう回らるので、飛び飛びでツアーや電車で行ったり。

息子と娘がおりますが、散髪屋の跡継ぎはなしですわ。もう二、三年でつぶれるでしょう。もうなくなると思います。一番年長のお客さんは九十五歳かな。常連さんも大分おつてやけど、うちがなくなっても心配することない。なんとかかしてやる！

家内は六つ違いの七十七歳。今のとこまだ現役でできる。

お店は毎週月火休みなんでね、月曜と火曜は買い物がてらドライブに行くんです。遠いところが好きで、福崎の旬彩蔵で青もん。ほうれん草一把買うのに福崎やないといかん。そこに行って買う言うんです。なめこ買うのはヤマダ、それも青山のヤマダやないといかんねん。ホームセンターは広畑のムサシに行かなあかんねん。とにかく月曜と火曜は大変なんです。朝、買い物に出て、夢前のサンピアのお風呂に入ったりね。朝、車に乗せて買い物して、だいたい一時くらいにどっかでご飯食べて、ヤマトヤシキの西側で家内を降ろして、三時くらいに買い物済むから、その頃に駅南に迎えに行くんですわ。月曜と火曜はびったりこれの繰り返し。そうやそうや、ごっつい仕事があるんや。無料！無給やで。家内は私への文句は一つもなし。なんも言わへん。よかったなあ、よかったなあ、幸せやなあとずっと言うてます。散髪の仕事は好きなんかなあ。腹の中では、どない思とるかなあ。今の私の仕事は、奥さんの足になるのがメイン。

なんやらなあ、なんにも言うことないんですわ。困ったこともないし。お金はちょっと足らんねん。ワハハ。ようけあっても困るけどね。なんの不満もない。いやあほんまに。



聞き手 塩本 由紀子 さん

主婦。自分が知らない姫路の町、人をもっと知りたいと思ひ参加。語り手の話を聞くこと、向き合うことの中で、その方への興味から、尊敬やその方を大切に思う気持ちへと変化していく自分に気づきました。八十三歳の清水さんの穏やかな。今、を言葉にして下さったことで、私自身が穏やかな心地よさで満たされました。